

## 令和元年度 第1回北九州市子ども読書活動推進会議（要旨）

- 1 日時 令和元年7月5日（金） 14：30～16：00
- 2 場所 北九州市立子ども図書館2F 大研修室
- 3 出席者 [委員] 山元悦子委員（会長）他10名  
[事務局] 太田教育次長 他15名

### 4 会議次第

- (1) 「新・北九州市子ども読書プラン」平成30年度目標達成状況
- (2) 子ども図書館利用状況等
- (3) その他

### 5 主な質疑応答

#### 議題（1）「新・北九州市子ども読書プラン」平成30年度目標達成状況

事務局／ 「新・北九州市子ども読書プラン」の策定から3年が経過し総まとめの時期に差しかかっている。各施策が掲げた目標値が達成できるよう、関係機関が連携・協力しながら各事業を推進していきたい。

「平成30年度実績値」を基にプランの進捗状況を確認いただき、今後の取組の改善につながる意見を出していただきたい。昨年12月に子ども図書館がオープンし、明るくゆっくり読書ができる場所として大変好評を得ており、多くの方々に来館いただいている。今後は、子ども向け専門図書館としての運営はもちろん、学校や子育て関連施設への支援や地区図書館と連携し市全体で子どもの読書活動を推進していきたい。

会長／ 本日の議題は、①「新・北九州市子ども読書プラン」の平成30年度の目標達成状況②「子ども図書館の利用状況」についてである。

まず、議題1について事務局から説明をお願いしたい。

事務局／ 「新・北九州市子ども読書プラン」各施策の平成30年度の状況について。

プランは令和2年度が最終年度で中間地点であったが、進捗状況は様々である。総じて中学校がもう1つと感じている。

委員／ 中学校と小学校を比べた場合、小学校は上がっているが中学校は下がっている。中学校の忙しさなどどう考えているか。

事務局／ 小学生は保護者の方の声掛け等があるが、中学生は成長段階から難しい面がある。

委員／ 市民センターによる読み聞かせの実施回数は変わらず、家庭教育学級で子どもの読書をテーマにする講座の回数は増えている。子ども図書館ができて来館者も増え、環境はすごく整っているが実態に結び付いていない。「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」だけで図ることが難しいのか。

事務局／ 小学校は授業の中で図書館を利用するということがほぼ全ての学校で位置付け

られ、小学生は学校図書館を使い慣れているが、中学校は学校の状況による。学習センター、情報センターとして利用するよう伝えているが、数値的に中学校の課題はあると認識している。小学校、中学校の管理職、学校図書館職員対象の研修で、学校全体のマネジメントの中で学校図書館の活用について話をした。

会長／ 教科学習に学校図書館を活用する意識を先生方が持つと同時に、学校全体での取組・啓発を働きかけていることは大変重要。

委員／ 中学校区の地域コーディネーターとして地域の中学校を見ての感想だが、中学生は昼休みが大変短く、給食を食べ次の学科の用意だけで精一杯。図書館に行けるような状況でない。放課後は図書館が開いてない学校も多く、部活動に急いで向かうのが中学生の毎日の生活だと思う。学校全体での取組みであれば、働き方改革として先生方の部活動指導を週1回、休みを設ける、ノーテレビ・ノーゲームの日に部活動を一斉に休みにし、放課後に図書館を利用するなど、色んな角度から考えていくことが必要ではないか。

委員／ 学校の図書館をもっと活用するにあたり学校司書(学校図書館職員)をもっと活用することを考えてほしい。先生方が学校司書を活用し育てていただきたい。授業の資料を揃える、授業の助言など、学校司書の存在がとても大事。学校の図書室、特に中学校は活性化していかない。

会長／ 学校司書は雇用状況も色々違うため一括して考えるのは難しいかもしれない。司書に関する研修や司書と教科を1つずつつなぐような効果的なものなどご存じであればお願いしたい。

委員／ 学校司書の配置について疑問に思う。学校司書の訪問が、ある小学校は昨年度は週1回、今年度は年5回。新しく購入する本、ブックトークの本について聞きたいのに年に5回。学級数や生徒数は変わってないので、基準を伺いたい。

事務局／ 学校の先生方に学校図書館職員に対して若干遠慮感があるため、調べ学習などで「こんな書物があればいい」等リクエストし活用するよう伝えている。来年度から小学校の学習指導要領が全面改訂になり、授業を「主体的・対話的・深い学び」へと変える。小学校だと45分間の授業をずっと聞くのではなく、話し合い、調べ、発表・プレゼンなど行う。そのためには学校図書館はまさに一番いい場所。「主体的・対話的・深い学び」への授業改善を視野に入れ、図書館をもっと積極的に活用していく。必要な教材教具等々を、リクエストしながら揃えていく必要があると思う。本年度、学校図書館職員は56名。来年度は目標値として63名。計画的に増やしている。

1人につき1週間で中学校2日、小学校1日～2日、大体、1週間で3校ぐらいを回る。どうしても配置ができない学校は、全く行かないということではなく年間5回ぐらい行き、ブックヘルパーや学校の先生方と連携しながら学校図書館の運営に努めている。

事務局／ 子ども図書館で第1回目のブックヘルパー研修をしたが、学校から申込みが多く抽選を行った。指導部からは学校図書館のあり方について、学校図書館職員には学校図書館運営のノウハウを、学校現場からブックヘルパーとの連携を話してもらった。いずれもモデルになるようないい発表だった。

学校全体の管理職の考え方、図書館を担う図書館担当の先生、意欲的にブックヘルパーに指示を出せる学校図書館職員、支えてくれるブックヘルパーがいたら図書館は変わっていくと思う。

事務局／ 司書教諭の配置は学校の図書館法で12クラス以上の学校に司書教諭を置かなくてはならず、教諭の兼任を含めて約200校の小・中学校のうち、131校で司書教諭の資格を持っている教員を配置している。11クラス以下の学校には司書教諭の必置はないが、70校中のうち62校、約90%近くの学校に司書教諭を配置している。

会長／ 学校全体のマネジメント、それから司書教諭を中心とした教諭、そして学校司書、併せてブックヘルパーの方も連携を取っていきながら学校図書館を運営する。そういうモデルをつくり広めるという形で、一体となって動く学校図書館運営ができるという展望が見えたような気がする。

委員／ 昨年度から今年度、学校図書館職員の勤務時間の関係で、司書教諭等との打ち合わせが給食時間・休み時間・放課後などと時間の確保が難しい。学校司書が孤立感を感じないよう司書教諭が話しやすい雰囲気を作り、声かけをしている。学校司書は大切な人材。子どものために働きがいのある職場にしていかなければいけない。

委員／ 2014年度からの学校司書の資格を有している人がどのくらいいるのか。

学校司書の仕事と学校図書館司書教諭の仕事の役割分担が明確なのか。目標値に見えてこない。

小学校はPTAの保護者、ブックヘルパーが学校に対して協力的、学校司書をフォローしていただける方が多いので子どもたちが読書に向かえると思う。中学校になると保護者の方も少し子どもと距離を置くので、子どもたちの支援をする協力体制が薄くなっているのではと思う。

数字的なところで表していただけたらと思う。

事務局／ 役割分担はできている。研修などでよいモデルを参考にしていただけたらと思う。学校の規模や、学校の特色（読書が盛んスポーツが盛ん）、ブックヘルパーの数などの要件の中で全く同じようにはいかないと思う。ブックヘルパー、学校司書の方は読書愛、学習を含め子どもたちを支えようとする気持ちが強い。学校の状況に合わせて活躍していただきたい。

会長／ 施策2の学校司書の配置は、具体的に、司書教諭やブックヘルパーの役割分担、効果的な運営のモデル提示を進めていけば、数値目標プラス、具体的な提案というところにつながるのではないか。

事務局／ 学校図書館が活用されていない、特に中学校、やはり人を付けないとダメということで、平成23年から学校図書館職員を配置した。当時、司書教諭の先生方は配置されていたが通常の授業等があり、計画はするが図書館運営の関わりができない。図書館の運営は、司書教諭の先生と学校図書館職員、お手伝いをしていただくブックヘルパーの方、それと忘れてはならないのは児童会や生徒会での図書委員、子どもたちの自治の力、この4者でやっている。

大人だけでない。だから子ども司書も育成している。中学校の不読率についての問題は十数年前からあった。

学校図書館は、情報・学習センターとしての役割もある。子どもたちが情報を得る場として図書館を利用する。

今年度予算化されたので、早ければ来年の1月には、全中学校と特別支援学校には、タブレットが各学校12台ほど入る。Wi-Fiも入るので、図書館に持っていき、調べながら学校図書館での学習をするようになると思う。学校図書館に行く割合も増え、「ネットだけでは大丈夫かな」というような情報を、今度は本で調べてみよう、司書の先生に聞いてみよう等、レファレンス機能も含めて出てくるのではないか。今年はそういう意味でもう少し先に進むのではないかと思う。

会長／ 全体を通して何か意見があればお願いしたい。

委員／ 幼稚園から施策4の1項目「早寝・早起き・朝ごはん・読書カード」について。

カードが改善されすごくやりやすくなり、私の幼稚園でも夏休みが終わって提出が多くなった。それは園の職員のフォローによるもの。「よく読んだね」とスタンプを押し、シールを貼って返してあげる。各幼稚園、保育所の協力のもとにこの事業がなりたっていることをご理解いただきたい。例えば提出した数だけしおりやシールを送っていただき、子どもたちや家庭に返していくとそれが励みになって読んでいくというような形になる。

事務局／ 参加してもらっている幼稚園、認定こども園、保育所の数が大変増えてきたのはありがたいことで、小さい時から読書をする必要があると思っている。子ども家庭局と連携し、意見もいただきながらやっている。個人賞もあったが、小さい子どもたちに個人賞は馴染まないと言委員の皆様からご意見をいただき個人賞はやめたが、団体賞は残している。

## 議題（2）「子ども図書館の利用状況」

事務局／ 子ども図書館が12月22日にオープンして、5月までの数字をまとめている。

[配布資料2]

読書プランの目標を、子ども図書館基本計画の中に反映させた時の抜粋である。最終目標は、「豊かな心と生きる力」そこに向かって「いろんなことをやりましょう」「連携もこういうふうにしましょう」「機能とサービスはこれを実施していきま

しょう」ということになっている。だいたいどんな状況か示したい。

[配布資料3、4]

来館者、貸出者数、貸出冊数は順調に推移している。

学校図書館との連携が大きな柱の1つである。

学校図書館だけでなく子育て関連施設も含む、来館した子育て関連施設及び学校数、来館目的を出している。6月には、中学校、特別支援学校も来た。夏休みに放課後児童クラブの予約も入っている。

[配布資料5]

他館、他部局との連携も含め、子ども図書館が主催したイベントをまとめている。前回企業との連携が今一つというご意見をいただき、今回地元企業と連携する予定だったが雨により中止になり残念だった。今後も取り組んでいきたい。

他には、文芸サロンに子ども図書館の本を貸し出し専門家が読んだり、美術館と「にじいろのさかな原画展」のコラボ、漫画ミュージアムともイベントでコラボなど、本市の他の施設との連携も少しずつ進んでいる。

今後、ブックヘルパーの新しい研修、学校における読み聞かせボランティアの課題に取り組むような研修に取り組みたい。

中央図書館から引き継いだ「読み聞かせボランティア養成講座」は大変盛んに応募いただき進めている。

たくさんのお子どもたちに利用してもらって順調な滑り出しと感じている。

委員／ 配布資料4の「学習プログラム」とは何か。

事務局／ 学習プログラムは、授業で学校が子ども図書館を活用するというプログラムである。例えば、情報ネットワークという社会科の授業で、図書館を情報の中でどうかという勉強で来ているし、小学3年生が「わたしたちのまちの自慢」という自分たちのまちにどんな自慢の施設があるかということで取材に来た。このように授業と関連したものを学習プログラムという。

委員／ 今後学校にIT機器が入っていく時代で、1番たぶん学校司書たちがほしいのは、学校と子ども図書館・地区図書館、ネット環境でのつながりだと思う。

資料のやり取りが、効率的にできる環境が今後考えられているのか伺いたい。

事務局／ 人とか実際のものとかの貸し借りや派遣を、学校等に喜ばれるような形で、便利な形で地区館と連携しながらやっている。機械化、IT化までは至っていない。

委員／ 今後、子ども図書館で、ヤングアダルト、中高生がもうちょっと活用できるような環境を整えるべきと思う。中高生のお子どもたちはすごい企画力があるので、その企画をこの子ども図書館で活かしていただいて、今後、子どもたちが自ら動くような子ども図書館になればいいなと思っている。

事務局／ 子ども図書館は、18歳以下の子どもたちが対象ということになっている。最初の計画では高校生があまり出てこなかったが、皆様のご意見で高校生も対象に

なった。高校は学校図書館が非常に充実しており、司書も全部いるので、全く同じようなレベルではないが、ヤングアダルトにも力を入れないといけないと思っている。

委員／ 特別支援学校の来館は施設見学だけに留まっているのか。読み聞かせや読書、来館されてどのような活動をとったのか教えて頂きたい。

事務局／ 特別支援学校や特別支援学級は、「図書館はこういうところ」、「こんなに本があるね」、「こんなところだよね」ということを知らせたいという先生方のご要望が今の段階では強いと思う。読み聞かせや学校の要望には応えていきたいと思う。

委員／ 若松の小池特別支援学校で、夏の教室で絵本の読み聞かせを3年、4年ぐらい実施した。特別支援学校のスクールバスで、子どもたちがその日のことを、1年間ずっと言っている。絵本の内容や手遊びのことをすごく楽しみにしていて、今年は夏の教室がないと言ったらすごくがっかりしていた。

子ども図書館に来て、本の世界に触れる時間をぜひ作っていただきたい。

委員／ 昨年度子ども図書館が開館してからの来館数や貸出者数の前年対比、図書館がリニューアルする前の数字と比べて教えていただきたい。

事務局／ 基本計画策定時、勝山分館時代の来館者数、貸出者数、貸出冊数の1.3倍という目標を立てている。それはクリアできると思う。今、順調に推移している。

委員／ 今いろんなところで、キャラクターとかシールとか、子どもたちに目に留まりやすいもので覚えさせるという、そういう効果も必要と思った。

事務局／ 元々、中央図書館にブック3兄妹というキャラクターがある。また開館の時に18歳以下の子どもたちからロゴマークを募集しており、そのロゴマークを、今大いに宣伝しているところである。

会長／ 議題3「その他」、何か事務局からあるか。

事務局／ 第2期の委員での会議は今日が最後となる。2年間本当にお世話になりありがとうございました。

8月4日からは第3期の委員を決めていくということになる。いよいよ新しい次のプランに、今のプランをどうしていくかという話になると考えている。

委員／ いろいろ乳幼児の読み聞かせの機会などに、この図書館の話をさせていただいて、意外とお母さんからの反応がたくさんきている。通帳のことをすごく喜ばれていて、開館の時にたくさんいただいて帰った本市ゆかりの絵本作家の冊子もすごく喜んでいて。ただ絵本の数がとにかく少ない。今後増えていくのか教えていただきたい。

事務局／ 開館の時には、書架が空になる勢いで借りられたが、その後、増冊しており、今後も継続的に本を購入していく。

委員／ 来館者数を見ると、保育所もまだ2園ぐらいしか利用していない。PRをしたい。保育園や幼稚園は読み聞かせもしていただきたいが、いつが使いやすいか。

事務局／ 昼間であれば、1ヶ月ぐらい前に言っていただければ、バッテリーしなければ自由に使える。広い部屋、小さい部屋、読み聞かせ等、色々対応できるので遠慮なく電話で相談してほしい。読み聞かせは、ボランティアの方をお願いしている。

会長／ ぜひ積極的な活用をお願いしたい。たくさん意見が出たので、今後の予定に反映していただきたい。それでは、事務局の連絡をお願いしたい。